発言順位１６　　８番　絹 村 和 弘 議員　（一括質問）

１　市営墓地について

⑴　駒場霊園の今後のあり方について

駒場霊園は、平成２５年度及び本年度において整備事業を休止しているが、現在、市営墓地として市民に提供できる唯一の霊園である。今後の整備事業再開の予定や未着手となっている増設部分及び納骨堂新設計画の見通しと、同霊園の今後の方向性について伺う。

⑵　市営墓地の未使用区画の返還促進、活用について

新たに市営墓地を使用しようとする市民は、津波被害が想定される駒場以外の霊園の要望が多く、このため、駒場霊園以外の霊園の区画が返還され、使用の募集をすると、多数の応募があると聞いている。また、１１月議会の志政会の代表質問に対し、墓石等の設備の設置がされていない未使用の区画が４３０区画あるとの答弁があった。このような状況下において、市営墓地の未使用区画の返還を積極的に促進し、市民の要望に応え、再使用に活用すべきと考えるがどうか。

⑶　今後の市営墓地の方向性について

上記⑴、⑵の質問を踏まえ、今後の市営墓地全体の方向性を伺う。

２　元気高齢者・シルバー人材・主婦層の戦力化について

⑴　元気高齢者・シルバー人材・主婦層の地域社会への取り込みと仕組みについて

今後１０年～２０年先の磐田市の人口推移を想定した時、元気な高齢者・シルバー人材・主婦層に如何に社会の戦力になっていただくかが、これからの時代に必要な“地域力向上”のカギとなると思料する。

「支え合おう」「ボランティアをしよう」の掛け声のレベルを超え、生きがい・働きがいが体感できるという観点で、元気高齢者・シルバー人材・主婦層の“しごと”の場をつくり、そしてその担い手になっていただく仕組みを作りたいものと考えるが、見解を伺う。

⑵　年金推移等社会の変化に沿う戦力化対応について

今後、この高齢者や主婦層に戦力になってほしいと考える時、現在の各地域の自治体における地区社協や福祉委員会他各種委員会あるいは老人会等が、成り手がない、若い人が入って来ない等の課題を抱えていることに留意したい。そこには、年代差の考え方の相違だけでなく、今日のリタイア層の生活実情理解にミスマッチが生じていると思える。そうしたことは、年金受給の実態から読みとれる。

ボランティアは無償という概念から脱却して有償とするとか、年金プラスアルファーとなるアルファー部分を考慮する等の仕組みに変えていき、組織の委員や会員に入ってもらうというイメージでなく、クラブやＮＰＯを育て、傘下で自由に活躍する実行部隊というような連携のカタチに変えたいものと考えるが､こうした対応の検討について見解を伺う。

⑶　元気高齢者・シルバー人材・主婦層主体の“地域づくり事業”推進による地域活性化について

地方創生政策では、雇用創出を図る新産業導入や創業支援、あるいは大型化・国際化への支援策等、そして子育て世代への支援策等が主になるかと思料するも、一方の小さな市場分野や各地域に存在するこだわりの特産品分野、あるいは各地区にある課題に対する解決型・応援型の事業等を地域活性化の目的をもって､“地域づくり事業” として創造発展させたいものである。さらに、そうした小さな地域づくり事業に、元気高齢者やシルバー人材あるいは主婦層の参加を呼び掛ければ、アベノミクスの恩恵を受けることがないであろう層に、地域にあった尺度の幸せ度を生み出し、また、健康長寿・医療費削減も期待できると考えるが、見解を伺う。